

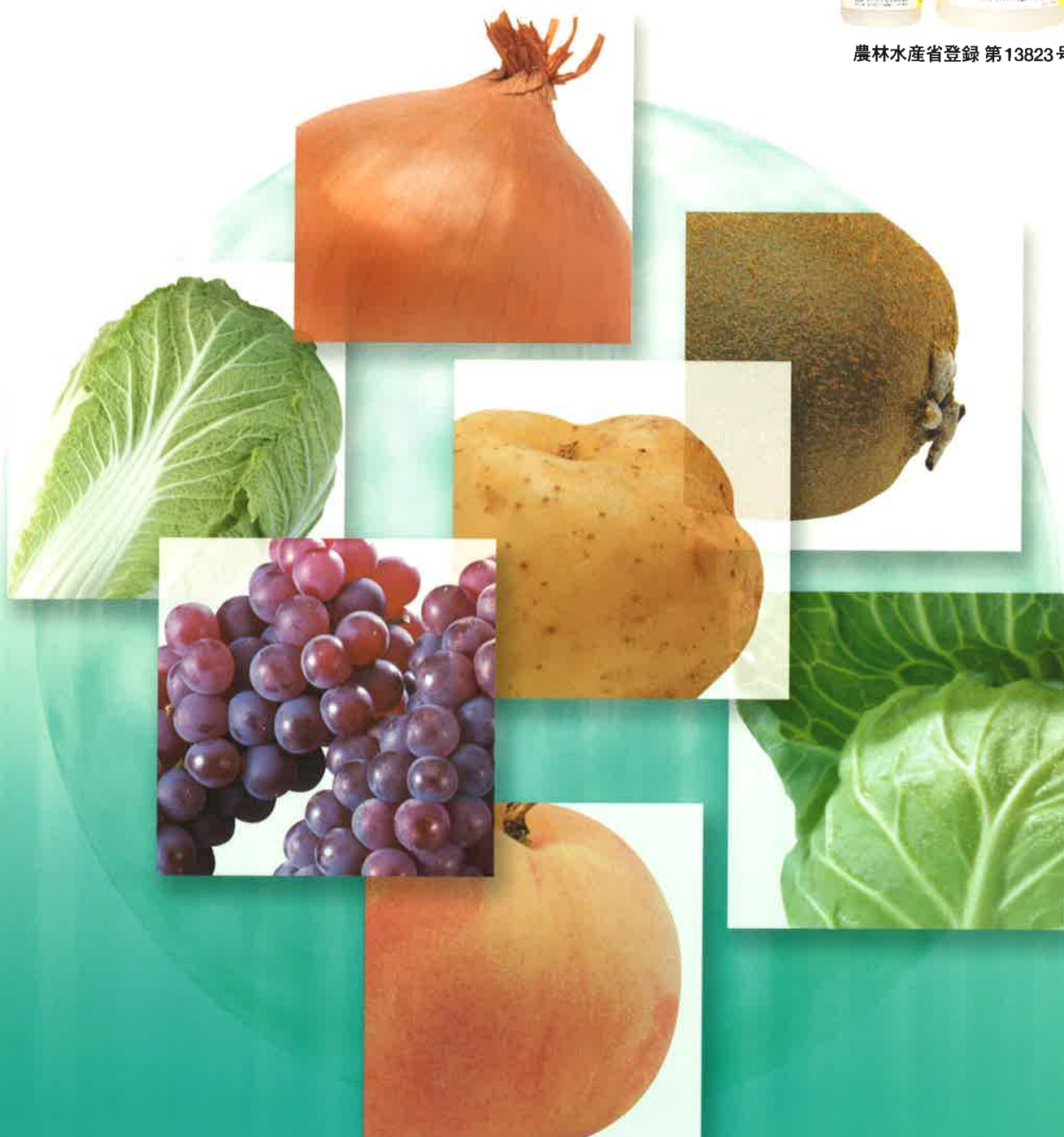
細菌性病害の防除とぶどうの無種子化に

AG アグレプト液剤

成分：ストレプトマイシン硫酸塩 25.0% (ストレプトマイシンとして 20%)



農林水産省登録 第13823号



●特長

1. ストレプトマイシン剤で野菜、果樹などの細菌性病害に優れた効果を発揮します。

●適用病害又は使用目的と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数
もも	せん孔細菌病	1,000～2,000倍	収穫60日前まで	2回以内	散布	2回以内
はくさい	軟腐病	1,000～2,000倍	収穫14日前まで	3回以内		3回以内
たまねぎ		1,000倍	収穫7日前まで	5回以内		5回以内
こんにゃく	腐敗病		収穫30日前まで	6回以内		6回以内 (種いもへの処理は1回以内)
キャベツ	黒腐病	2,000倍	収穫14日前まで	2回以内		2回以内
キウイフルーツ	かいよう病	1,000倍 (200ppm)	収穫後から落葉前まで	1回	樹幹注入	4回以内 (樹幹注入は1回以内)
ばれいしょ	そうか病 黒あし病	100倍	植付前	1回	5～10秒間種いも浸漬	5回以内 (種いもへの処理は1回以内)

作物名	使用目的	使用濃度	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数
ぶどう	無種子化	1,000倍 (200ppm)	満開予定日の 14日前～開花始期	1回	散布又は 花房浸漬	1回
			満開予定日の 14日前～満開期		花房浸漬 (第1回目ジベレリン 処理と併用)	

●効果・薬害等の注意

(1) 一般的注意事項

- 石灰硫黄合剤、ボルドー液及び石灰、タルク、ペントナイトなどの吸着性増量剤を含有する薬剤との混用は避けて下さい。
- 収穫物には使用しないで下さい。
- 医薬として用いないで下さい。
- 有効年月内に使用して下さい。

(2) 殺菌剤として散布して使用する場合

- 高温時には黄白色の斑点を生ずることがあります。特に、はくさいについては高温時又は幼苗期には使用しないで下さい。(薬害)
- 過度の連用をさけ、作用性の異なる薬剤と輪番使用をして下さい。(耐性菌出現回避)

(3) キウイフルーツのかいよう病に対して樹幹注入する場合

- 本法による防除を初めて実施する場合は、必ず病害虫防除所等関係機関の指導を受けて下さい。
- 主幹が棚下で分岐している樹では使用しないで下さい。(効果、薬害)なお、1本仕立ての主幹の樹であっても薬害を生ずる場合があります。
- 主幹の途中から分岐している小枝は夏季せん定時に切除しておいて下さい。
- 使用量は棚上の樹冠面積10m²に対し3ℓの注入量を基本に樹冠面積が10m²増すごとに1ℓの割合で注入量を増加して下さい。

●処理方法

- 主幹の地際から高さ10～30cm程度の部位に、ドリルを用いて直径5mmの注入孔を水平にあけて下さい。孔は幹の中心部を貫通させ、深さはなるべく反対側の皮層部の際までとして下さい。
- 孔内の木屑をかきだして除き、注入孔の入口をゴム栓で密封して下さい。
- ハ、本剤の所定量を注入器具セットの薬液容器に入れ、棚面に吊し、薬液容器の下部にあるゴム栓に通気針を刺して下さい。
- 二、薬液が細管の先端に連結している注射針の先に達したら、細管内の気泡を抜き、幹の注入孔を封じているゴム栓に針を刺し込んで下さい。針はゴム栓の下方から上方へ向きに刺し、細管の針に連結する部分をやや弛ませて気泡が抜けやすくして下さい。
- ホ、薬液の注入に要する時間は、通常2ℓ当たり2時間30分前後です。但し、夕方になると急速に薬液を吸入する力が低下するので、早朝から処理を開始し、その日の内に所定量の薬液を吸引させて下さい。

ヘ、注入が終了したら器具は回収して下さい。

ト、注入孔を密封しているゴム栓は梅雨明け後にははずして下さい。できれば塗布剤を塗りカサの発達を促して注入孔をふさいで下さい。

チ、新たな感染などにより再処理が必要な場合には、前年の注入孔をさけ、高さや位置を変えて下さい。

(4) ばれいしょの種いも消毒に使用する場合は下記の事項に注意して下さい。

- ①萌芽後や種いも切断後の処理は薬害を生ずるのでさけ、必ず萌芽前に種いもを切断せずに処理して下さい。特に植付後の地温の上昇が遅れた場合には萌芽や生育遅延が助長されるので春先の気温が低い地域では注意して下さい。
- ②浸漬処理が長くなったり、高濃度液に浸漬すると薬害が生じやすいので所定の浸漬時間及び希釈倍数を厳守して下さい。
- ③薬剤処理した種いもは長時間ぬれたままにしておくと発芽遅延等の薬害を生ずるので、風通しのよい場所ですみやかに乾燥させて下さい。
- ④種いもを切断する場合は処理した薬液が十分乾いてから行って下さい。
- ⑤薬剤処理した種いもは食料又は飼料には使用しないで下さい。

(5) ぶどう(ジベレリン液に添加)に使用する場合

- 第1回目ジベレリン処理時にジベレリン液に添加して花房浸漬処理し、第2回目ジベレリン処理(単用)を必ず行って下さい。
- 展着剤は加用しないで下さい。
- 薬剤は使用の都度調製し、なるべく調製当日に使用する。また調製液はなるべく日陰において下さい。
- 必ず処理適期に使用し、所定濃度を厳守して下さい。
- 使用に当たっては、ジベレリンの使用上の注意事項を厳守して下さい。
- 使用に当たっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- 新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効・薬害の有無を十分確認してから使用して下さい。

●安全使用上の注意

- 誤飲に注意して下さい。
- 散布時は、農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖作業衣などを着用して下さい。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをして下さい。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。この印刷物の内容は2006年11月現在のものです。

【お問い合わせ／ご注文は】



明治製菓株式会社

〒104-8002 東京都中央区京橋2-4-16
http://www.meiji.co.jp/agriculture/

AGS-1
K061130